

遺物

3-1区を中心に、古代から中世にかけての遺物が出土しています。古代の土器では赤色で軟質な土師器と灰色で硬質な須恵器があります。土師器には煮炊きで使う甕や食膳具の椀があり、須恵器には甕や壺などの貯蔵具、杯や杯蓋などの食膳具があります。このうち、3-1区遺構外から出土した須恵器有台杯の底面には、ヘラ状工具で「×」の刻書がなされていました。

中世の土器では土師質土器・珠洲焼があります。土師質土器には皿、珠洲焼ではすり鉢や甕・壺が認められます。土師質土器の中には内面に煤が付着しているものがあり、これは灯明皿として利用されたものと考えられます。

土器以外の遺物では、砥石や木製品が出土しています。木製品には曲物の底板、差歯下駄の歯、柱材などがあります。柱材は掘立柱建物の柱穴で見つかり、長さ約33cm、径約12cmで上部は腐ってなくなっています。底面には手斧で加工した痕跡が認められます。



須恵器 有台杯



珠洲焼 すり鉢



土師質土器



砥石

平成27年度の調査から

平成27年度は、今年度の調査区の西側260mについて調査を実施しました。

去年の石田遺跡の調査では、数棟の掘立柱建物がみつかった居住域と水田遺構を中心とした生産域、そしてそれを区画する幅広の溝などが発見されました。今年度の調査でも同様の傾向が見て取れます。また、溝で区画された建物跡は近くの藤ノ木遺跡・割前遺跡でも同様にみつかっています。

いずれの遺跡も布施谷川によって形成された自然堤防上に位置していることが関係しており、地形の高低差によって土地の利用を変えていたことが考えられます。また、居住域と生産域との間に溝を掘ることによって、用排水としての利用だけでなく、意識的な境界線として考えていたのではないかと推測します。

さじの遺跡物語

石田遺跡・梅田遺跡現地説明会

平成28年10月23日(日)
三条市市民部 生涯学習課

はじめに

石田遺跡・梅田遺跡は三条市須戸新田・井栗地内に所在する沖積平野に立地した遺跡です。一般国道403号三条北バイパス道路改築事業に先立ち確認調査を実施したところ遺跡が良好な状態で残存していることから、事前に発掘調査を実施することになりました。今年度は水戸川周辺から西川までの220mの範囲について調査を実施しています。遺跡の時代は平安時代と室町時代を中心とした中世で、建物がある居住域と溝や耕作の痕跡がある生産域について調査を進めてきました。現在の須戸新田は、地名に「新田」とつくことから分かる通り、近世以降に井栗村を親村として開発が進められた集落であり、中世以前の文献からはその名を確認することはできません。今回の調査では、今まで知られていなかった小規模な集落があることが判明し、また、近世以前の信濃川周辺に人々が進出する様子が明らかになってきました。



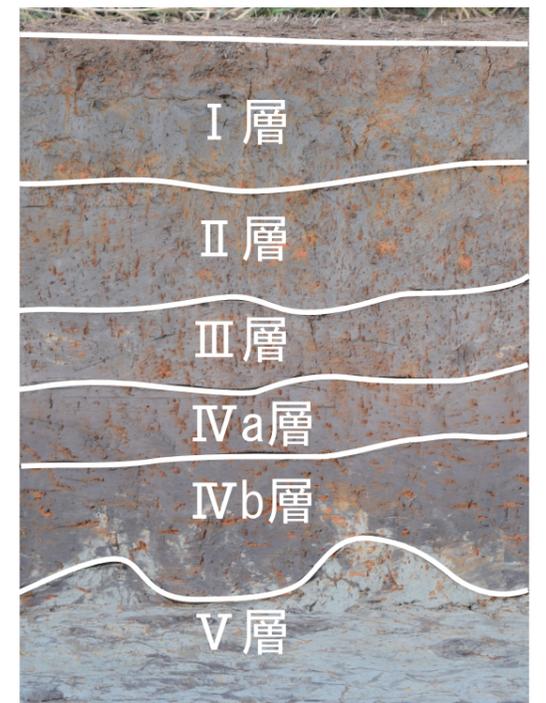
遺跡位置図 (S=1:50,000)

調査の概要

基本土層

調査区内の土層堆積状況は以下の通りです。

- I層：表土（現在の田面）
- II層：黄灰色粘質土（耕作土床土）
- III層：灰黄褐色粘質土
- IV a層：褐灰色粘質土
（古代から中世遺物包含層）
- IV b層：黒褐～黒色粘質土
（古代から中世遺物包含層）
- V層：地山（上面が遺構確認面）



基本土層

遺構

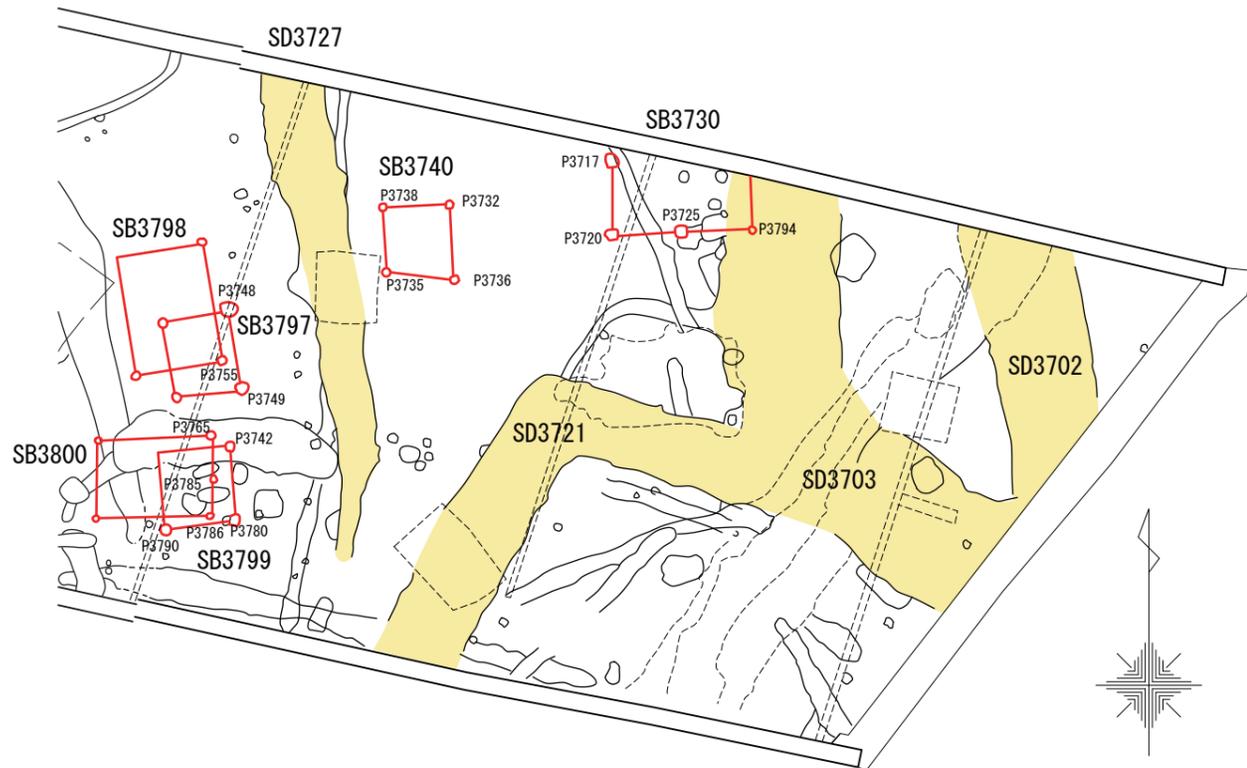
今回の調査は地区を2つに分けて進めています。調査の終了した2-1区では数条の溝が見つかったのみで、人の活動の痕跡は希薄でした。しかし、現在調査中の2-2・2-3区では、水田とそれに付随する用排水施設と思われる遺構が見つかり、今後の調査結果が期待できます。

3-1区では掘立柱建物や溝、土坑、柱穴などの遺構を約90基検出しました。調査区の西側では掘立柱建物が、東側では幅広の溝が見つかりました。

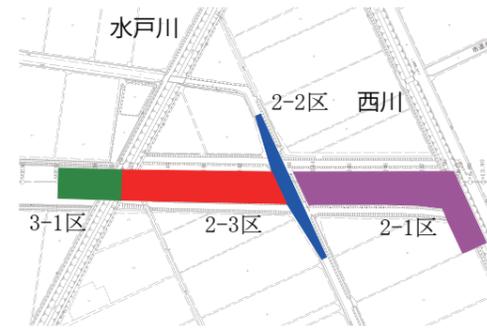
掘立柱建物は1間×1間で平面が正方形のものが3棟(SB3740・SB3797・SB3799)、平面が長方形のものが2棟(SB3798・SB3800)あります。SB3730は調査区の北端に位置しているため、全体の規模は不明です。SB3800の柱穴P3785には、直径約12cm、長さ約33cmの柱根が残っていました。

溝SD3727は掘立柱建物と向きがそろっており、居住域の内部を区切るための区画溝と考えられます。この区画溝SD3727からは、珠洲焼や土師質土器などが出土しました。

溝SD3702・SD3703・SD3721は幅2.0～3.5mと広く、土層の堆積状況も類似していることから、ほぼ同時期に機能していたと考えられます。溝SD3703は深さ約25cmの浅い溝であったものを、約50cmと深く掘りなおしています。SD3721はSD3703から東西方向に分岐し、調査区中央付近で南西方向に向きが変わっています。溝SD3702・SD3703・SD3721の東側及び南側からは掘立柱建物が見つかっていないことから、これらの溝は居住域の境界を示していると考えられます。



3-1区平面図 (1/200)



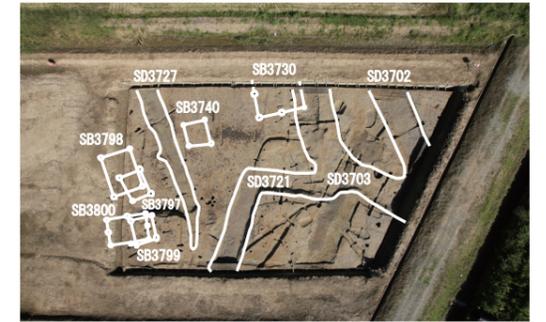
調査区概念図



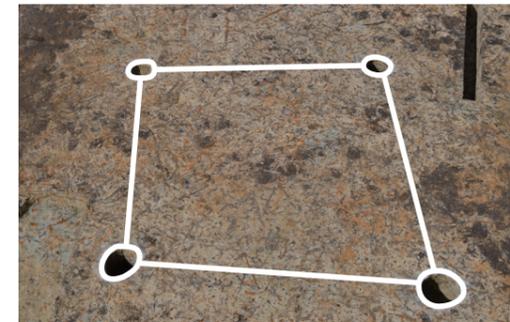
調査区全景 (東から)



2-1区全景 (上が北)



3-1区全景 (上が北)



掘立柱建物 (SB3740) 全景 (南から)



掘立柱建物 (SB3730) 全景 (北から)



P3785 柱根出土状況 (東から)



SD3727 珠洲焼出土状況 (南から)



溝 (SD3727) 完掘状況 (西から)



溝 (SD3703) 土層堆積状況 (南から)